

人権だより

八幡浜高校 人権委員会 令和5年度 12月号

年の瀬が迫り、とても冷え込む日々が続いています。冬休みに入り、クリスマスやお正月などのイベントがある中、スマホやインターネットの使い方を改めて見直し、充実した楽しい生活を送れるようにしましょう。

【インターネットによる人権侵害】

最近では、スマホなど電子機器を所持している人が多いと思います。スマホはとても便利で、生活の中でも欠かせない存在となっています。しかし、使い方を少し間違えただけで、いつの間にか相手を傷つけてしまっていたり、自分が傷ついてしまったりすることがあります。例えば、わざとデマを拡散する、誹謗中傷、個人情報の公開などがその代表例として挙げられます。このような行動をすることで、自分や他者の人権が侵害されることがあります。

「インターネットによる人権侵害」はなぜ起きてしまうのか？

多くのSNSは匿名での発信が可能となっています。匿名では実名のときよりも気持ちが大きくなり、普段はしないような過激な発言をすることがあります。それらの心ない発言は他者を傷つけたり、時には人の命を奪ったりします。自分も加害者になる可能性があるため、書き込みをする際には十分に気を付けましょう。

また、最近では投稿した写真で場所が特定される、デマ情報が拡散されるなどの問題も発生しています。

一度書き込んだ情報は、不特定多数の人に広まり完全には消すことができません。最悪の場合、自分や友達、見知らぬ誰かに多大な損害をもたらす可能性があります。

SNSや動画投稿サイトで、何かしらの情報を発信している人は、これを機にSNS等の使い方を見直しましょう。

【こども食堂での活動】

12月10日（日）に、人権委員と家庭クラブ役員が参加したこども食堂「のきした」での活動を報告します。

今回の、こども食堂では、主にお弁当作りのお手伝いをしました。具体的には、チキンライス作り、おかず・デザートの盛り付けを行いました。「のきした」でお弁当作りに携わるのは初めて

だったので、かなり苦戦しました。106 食分のお弁当を用意するというのは、想像以上に骨が折れる作業でした。一方で、たくさんの人と協力したり、話したりしながら作業を進めるのはとても楽しかったです。お弁当を渡す時間になると、一気にあわただしさが増しましたが、子どもたちやその保護者の方々の温かい言葉や笑顔に心が癒され、大きなやりがいを感じました。

今回の活動を通して「食」が「生きる力」につながるということ、こども食堂は「人としての豊かさ」を提供し、「人と人とのつながり」を感じられる場であることを実感しました。こども食堂での活動はこれからも続けていきますので、ぜひ皆さんも参加してください。

ところでみなさんは12月10日が何の日か知っていますか。私も今回の活動を通して初めて知ったのですが、12月10日は「[世界人権デー](#)」だそうです。また、日本では12月4日～10日の1週間が人権週間となっています。世界人権デーは1950年の第5回国連総会で、[世界人権宣言が採択された](#)12月10日に制定されました。これは、人間なら誰もが持っている人権の保障と基本的人権の尊重を国際社会に訴えかけ、人権尊重の思想を世界に広めることが目的です。しかし、この世界人権デーは認知度が低いことが課題となっています。このままでは人権意識を世界に広めるという目的を達成することができないかもしれません。この記事を読んだ人が、一人でも多く世界人権デーに関心を持ってくれると嬉しいです。

～人権・同和教育課より～

私の好きなバンド amazarashi の『クリスマス』（作詞・作曲：秋田ひろむ、2010）の歌詞では、クリスマスの夜に撃たれたミサイルの軌跡を流れ星と見間違えた少女が登場します。少女はミサイルに願いをかけ、雪の降るクリスマスを過ごしました。この曲が作られて10年以上が経った今日も、ウクライナで、ガザで、世界のあちこちで不条理な暴力によって生命が奪われています。暴力によって人が死ぬことが当たり前でいいはずがありません。しかし、私たちはこの世界から目を背けてしまえる環境にいます。常にテレビやSNSを埋め尽くしているメジャー選手の活躍や流行のケーキ屋など、メディアの喧伝するきらびやかな世界は、私たちにとって非常に魅力的で眩いです。だからこそ、その背後にある、現実の世界を直視する必要があります。人ひとりの生命があまりにも軽く、尊重されないこの世界で、これらの問題に対して無関心でいることは許されません。人ひとりの生命は尊い。そんな当たり前のことすら忘れてしまうような年の瀬ですが、来年と言わず、今すぐに、ありとあらゆる不条理な暴力がこの世界から消えることを祈り続けています。そして、私は信じたいのです。この世界は美しいと。